

2020年度 事業報告書

2020年(令和2年)4月1日から2021年(令和3年)3月31日まで

公益財団法人 SOMPO美術財団

I. SOMPO美術館関係事項

4月1日に館名を「SOMPO美術館」に変更し、7月10日に隣接する新美術館棟へ移転、オープンした。当年度は新型コロナウイルス感染症（以下「感染症」）の蔓延により、大幅な事業の変更、中止を余儀なくされた。感染予防・拡散防止のため、5月28日に予定していた美術館の開館及び開館記念展の開幕を延期し、記念展の構成を2部制から1部制に変更、特別展「ゴッホと静物画」は開催中止、代替として「東郷青児蔵出しコレクション展」を開催した。鑑賞支援活動は全て中止、FACEは表彰式・内覧会を中止、SOMPO美術館賞の授与は1件に止まった。

1. 美術作品の収集、保存、公開

<1> 開館記念展 「珠玉のコレクション—いのちの輝き・つくる喜び」

会期：7月10日（金）～9月4日（金）

共催：読売新聞社 協賛：損保ジャパン

新美術館の開館記念として収蔵作品の中から、ファン・ゴッホ《ひまわり》のほか、フランス近代絵画、東郷青児を始めとする近現代の日本人画家による作品約70点を選び、6つのテーマに分けて紹介した。大正・昭和期の日本画家、山口華楊による屏風絵《葉桜》を大規模な修復を完了し、約10年ぶりに公開したほか、ルノワール《浴女》も古いニス除去を経て鮮やかな色彩を取り戻した姿で展示、加えて、これまでのFACEグランプリ作品も展示した。

また、ゴーギャン《アリスカの並木路、アルル》、セザンヌ《りんごとナプキン》、ルノワール《帽子の娘》《浴女》の作品撮影を許可した。

本展は、緊急事態宣言における休業要請に応えるため、及び感染症対策を講じるため、当初予定していた5月28日から7月10日に開幕を延期、事業計画での「開館記念展Ⅰ」「開館記念展Ⅱ」の二部構成を見直し、展覧会名・会期を変更して開催した。

開館式や内覧会は中止、密集を防ぐため日時指定制を導入し、チケット販売はプレイガイドやインターネットに限定、当館での窓口販売は見合わせた。

【関連イベント】

① プレス内覧会（7月9日）

② ホームページの「オンライン美術館」で『SOMPO美術館ガイドムービー』を公開

③ 新宿野村ビル飲食店街とコラボし、チケットによる割引サービスを実施

（7月27日～8月31日）

【主な放送・掲載誌等】

MXテレビ「アート・ステージ」（6/13 放送）、BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」（8/4 放送）、フジテレビ「めざましテレビ」、（7/9 放送）、NHK「首都圏ネットワーク」（8/28 放送）、テレビ朝日「じゅん散歩」（9/16、9/19 放送）、月刊美術（9/20 発売号）、新美術館新聞（8/1 号）

上記のほか読売新聞をはじめ、朝日新聞、産経新聞、東京新聞、美術雑誌、インターネット、テレビ等で幅広く取り上げられた。

<2> 「開館記念展Ⅱ 秘蔵の東郷青児—多才な画家の創作活動に迫る」

上記<1>の会期変更により、本展の開催を中止とした。

<3> ゴッホと静物画

感染症蔓延のため、海外からの一部作品輸送の目途が立たず開催を中止した。

<4> 「東郷青児 蔵出しコレクション～異国の旅と記憶～」

会期：11月11日(水)～2021年1月24日(日)

共催：日本経済新聞社 協賛：損保ジャパン

「ゴッホと静物画」展中止に伴う代替展として本展を開催した。

本展では、東郷青児の「旅」をテーマに、油彩、素描、彫刻、デザイン、写真資料、そして東郷の蒐集品など、これまで展示する機会の少なかった収蔵品約140点を通じて、生涯、異国に興味を抱き続けた画家の足跡をたどった。

東郷青児作品数点のほか、初めてゴッホ《ひまわり》の撮影を許可した。

密集を防ぐため日時指定制とし、リアルタイムで入場者数を管理できる二次元バーコード発券システムを活用し、インターネットでのチケット取得を促すとともに、当日券を当館窓口でも販売した。

【関連イベント】

- ① プレス内覧会(11月10日)
- ② 展覧会解説映像を1階で放映するとともにホームページの「オンライン美術館」で公開した。
- ③ 東郷青児を紹介する映像を2階で放映した。
- ④ 新宿野村ビル飲食店街とコラボし、当館チケットによる割引サービスを実施した。

(12月1日～1月24日)

【主な掲載誌等】

文化庁ポータルサイト「Culture NIPPON」で東郷青児蔵出しコレクションの特集記事が掲載された

日経新聞をはじめ、産経新聞、東京新聞、週刊朝日(10/6 発売)、美術雑誌、インターネット、ラジオ等で幅広く取り上げられた。

<5> 「FACE展2021」

会期：2月13日(土)～3月7日(日)

共催：読売新聞社 協賛：損保ジャパン

公募コンクール形式のFACE展の第9回目であり、応募作品1,193点の中から審査会において決定された入選作品83点(うち受賞作品9点)を展示した。

ゴッホ《ひまわり》をはじめ、出品作品及び東郷青児作品の撮影を許可した。

本展は密集防止のための入場数管理を行った上で日時指定は不要とした。

【関連イベント】

- ① 緊急事態宣言発出により、表彰式、内覧会、プレス内覧会の開催を見合わせた。
- ② 受賞者には表彰盾と作品のポストカードを、入選者には作品のポストカードを、応募者全員に展覧会図録と観覧券を贈呈した。

【主な掲載誌等】

読売新聞夕刊に受賞作品決定の広告を掲出(2/11)東京新聞(2/19)、美術の窓、月刊美術、月刊ギャラリー等で紹介された。

インターネットでは、コンペ情報サイト「登竜門」とWEB版「美術手帖」にグランプリのインタビューが掲載された。

<6> 「生誕150年記念 モンドリアン展 純粋な絵画をもとめて」

会期:3月23日(火)～6月6日(日)

共催:日本経済新聞社 協賛:損保ジャパン、野崎印刷紙業

後援:オランダ王国大使館 協力:KLM オランダ航空 企画協力:NTVヨーロッパ

生誕150年を記念して、オランダのデン・ハーグ美術館所蔵のモンドリアン作品50点、国内外美術館所蔵のモンドリアン作品と関連作家作品約20点を展示し、モンドリアン芸術の広がりを見直し、初期のハーグ派様式の風景画、象徴主義や神智学に傾倒した作品、キュビズムの影響を受けて独自展開した作品、晩年の水平垂直線と原色平面の「コンポジション」まで多岐にわたり、同時に「デ・ステイル」のプロダクトデザインと合わせて紹介、日本で23年ぶりの展覧会となった。

密集を防ぐため日時指定制とし、リアルタイムで入場者数を管理できる二次元バーコード発券システムを活用し、インターネットでのチケット取得を促すとともに、当日券の窓口販売を実施した。

【関連イベント】

① プレス内覧会(3月22日)

② 展覧会解説映像をホームページの「オンライン美術館」で公開した。

【主な掲載誌等】

アートコレクターズ(3月号)、日経新聞をはじめ、朝日新聞、東京新聞、美術雑誌、インターネット、ラジオ等で幅広く取り上げられている。

<7> 併設展示

(1) ゴッホ《ひまわり》は常時展示した。

(2) ゴーギャン《アリスカンの並木路、アルル》は「開館記念展」と「東郷青児蔵出しコレクション」で展示した。

(3) セザンヌ《りんごとナプキン》は「開館記念展」「東郷青児蔵出しコレクション」「モンドリアン展」で展示した。

【ゴッホ《ひまわり》に関する主な放送番組、掲載誌等】

NHK・Eテレ「日曜美術館」(7/19 放送)、BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」(4/7、4/21、7/28、1/19 放送)、日本テレビ「世界一受けたい授業」(8/15 放送)、TBS「グッとラック!」(11/25 放送)、テレビ朝日「池上彰のニュース そうだったのか!!」(12/26 放送)

【新美術館に関する主な放送・掲載誌等】

OZ Magazine TRIP(4月号)、ハルメク(6月号)、NHK総合「おはよう日本」(6/28 放送)、フジテレビ「めざましテレビ」(7/9 放送)、ことりっぷ Magazine(7/15 発売号)、フジテレビ「めざましどようび」(7/18 放送)、NHK総合「ひるまえほっと」(8/6 放送)、共同通信記事『解説ひまわり』(8/6 配信)、財界(8/26 発売号)、朝日新聞夕刊「建モノがたり」(9/1)、フジサンケイビジネスアイ(9/4号)、月刊誌「博物館協会」(9/25)、共同通信記事「三密回避で再開する美術館」(9/30 配信)、新建築(9月号)、一個人(10/3 発売号)、読売新聞日曜版「ニッポン探景」(10/18)、朝日新聞全面広告(10/29)、朝日新聞月曜夕刊の「まちの記憶」(11/2)、ミセス(11月号)、Casa BRUTUS(11月号)、朝日新聞火曜夕刊「ロゴ散歩」(2/16)

<8> 展覧会鑑賞支援及び館蔵品解説

(1) 図録・解説書の刊行

- ① コレクション100選(館名変更による改訂)
- ② ジュニア版ブックレット「フィンセント・ファン・ゴッホ」、(館名変更による改訂)
- ③ ジュニア版ブックレット「東郷青児」(館名変更による改訂)
- ④ 収蔵品目録2020年度版
- ⑤ 山口華楊《葉桜》の修復記録
- ⑥ 『解説 フィンセント・ファン・ゴッホ ひまわり』(求龍堂 発行日2020年6月17日)
- ⑦ 「FACE展2021」図録
- ⑧ 「モンドリアン展」図録

(2) 映像による展覧会紹介

- ① 「東郷青児蔵出しコレクション」展解説
- ② 「モンドリアン展」解説

(3) ゴッホ《ひまわり》複製陶板を美術館前庭に設置

(4) 感染症対策のため、ギャラリートークや、「トークフリーウィーク」は見合わせた。

<9> 展覧会別観覧者数

会期	展覧会名	開館日数	有料計	無料計	合計	1日平均
7/10～ 9/4	開館記念展	50	16, 134	8, 112	24, 246	485
11/11 ～1/24	東郷青児蔵出し コレクション	61	4, 927	4, 562	9, 489	156
2/13～ 3/7	FACE展2021	20	2, 476	2, 199	4, 675	234
3/23～ 3/31	モンドリアン展	8	3, 538	1, 209	4, 747	593
合計		139	27, 075	16, 082	43, 157	310
<参考>前年度合計		152	85, 125	67, 516	152, 641	1, 004

<10> 館蔵品・資料・文献の収集・整備

(1) 新収蔵庫への移転

新美術館棟への移転に伴い、4月から新収蔵庫への館蔵品の移転作業を開始、緊急事態宣言の発令に伴う中断を経て7月末に完了した。

(2) 美術品等の受贈

- ① 山本貞 《水辺の光景》 1998年 油彩・キャンバス (12月5日)
第52回二紀展出品、第22回当館大賞受賞作品
- ② 東郷青児 《かぼちゃ》 1940年頃 墨絵 素描額紙マット装 (3月3日)
- ③ 東郷青児 無題(虎) 制作年不詳 軸装 (3月3日)
- ④ 魏嘉 《sweet potato》 2020年 パステル・スプレー・エアブラシ・キャンバス (3月8日)

(3) 館蔵品の修復・保全

感染症蔓延のため、必要最低限の措置のみを実施した。

- ① 東郷青児《タッシリ》《ラムセスの寵妃》《砂漠の花》の額装修理 (～6月)

- ② ルノワール《浴女》の額の改善 (4月)
 - ③ 収蔵庫移転に伴う館蔵品全ての状態点検 (4月～8月)
 - ④ ルノワール《帽子の娘》のクリーニング作業 (12月～2021年5月)
 - ⑤ グランマ・モーゼス4点のクリーニング作業 (12月～2021年4月)
- 《古い櫛のつるべ》《古い櫛のつるべ、1760年冬》《プロポーズ》《オールド・ホーム》

(4) 館蔵品の貸与

作品名	貸与先等
東郷青児《自画像》	「自画像 ～ひとみの中に自分がいる～」 一宮市三岸節子記念美術館(1/30～3/14)

(5) 著作権の管理

- ① 当館が管理する著作権に関し、27件の許諾を出した。
- ② 著作権申請書類の国際版フォーマットを作成した。
- ③ 2015年度末に380万円で取得した東郷青児・たまみの著作権に関する収支状況は以下のとおりである。

【著作権取得前に財団が支払っていた著作権使用料】

2013年度	2014年度	2015年度	3か年平均
約35万円	約97万円	約49万円	約60万円

【著作権取得後に財団が受け取った著作権使用料】

2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	合計
なし	2件 約23万円	5件 約54万円	7件 約9万円	4件 約53万円	18件 139万円

<11> 調査・研究

(1) 執筆・講演活動

- ① 『ロンドン・ナショナル・ギャラリー展 完全ガイドブック』(朝日新聞出版)に寄稿
- ② 全国美術館会議会報誌(8月号)に寄稿
- ③ 「美術の窓」1月号の学芸員こぼれ話『2020年、この展覧会を見せたかった!』に寄稿
- ④ 「サライ.jp」に東郷青児蔵出しコレクション展の作品解説を寄稿
- ⑤ 東美ニュース第87号(2021年5月10日発行)に美術館と展示作品に関し寄稿
- ⑥ 「美術の窓」4月号にモンドリアン展紹介記事を寄稿

- (2) 感染症対応として、出張及び研修会等への参加はビデオ会議のみとした。

2. 展覧施設の運営管理

<1> 新型コロナウイルス感染症対策

日本博物館協会や国、東京都のガイドラインに従い適切に実施した。

- (1) 密集、密接を避けるため、開館記念展、東郷青児蔵出しコレクション、モンドリアン展では、日時指定制と期限付無料観覧券を導入することで入場者数を制限し、1時間程度での鑑賞への協力を依頼した。エレベータへの乗車は5名までとし、ミュージアムショップや休憩スペースの什器を減らした。
- (2) 感染防止のため、美術館出入口を1階正面玄関のみとし入館時にサーモグラフィーによる検温と手指消毒を実施し、マスク着用を依頼した。ロッカー、授乳室、トイレの一部使用制限、ハンドドライヤー使用禁止とともに、トイレや階段の手すり、エレベーターボタンやロッカー等の高頻度接触部位の消毒をこまめに行い、手指消毒液を各所に設置した。また、受付、ショップのレジカウンターに飛沫防止シールドを設置した。

館内スタッフは出勤時の検温、手指消毒と勤務時のマスク着用を徹底し、使い捨て手袋やフェイスシールドの着用を推奨、集団感染を回避するため2班による曜日シフト制とした。

- (3) 来館者やスタッフに感染者が出た場合に備え、チケットや整理券、レシート等に記載された入場日時を記録として活用し、ホームページのお知らせを確認するよう呼びかけるほか、オンラインチケット購入者へメール連絡できる体制を整えた。

<2> 施設・設備等の整備

- (1) 新美術館で使用する什器・備品を移転、購入した。(4月4日、5日)
 (2) インターネット環境を整備し、ネットレジを5台設置した。(4月)
 (3) 来館者用のフリーWi-Fi を設置した。(6月)
 (4) 1階から2階の踊り場に東郷青児メモリアルボードを設置した。(6月)
 (5) 美術館周辺にポスターボードを新たに設置し、フラッグを一新した。(7月)
 (6) 新美術館の「建築の見どころガイド」を作成した。(11月)
 (7) 受付に日時指定券発券システムを導入した。(11月)

<3> 美術館ウェブサイトのリニューアル

美術館移転と館名変更を機に6年ぶりに全面リニューアルした。「シンプル×モダン×楽しさ」をコンセプトに情報発信し、同時にSNSの運用も開始した。展覧会情報、美術館利用案内、FACE公募規定、ミュージアムグッズ等のお知らせのほか、収蔵品を毎月紹介する「今月の一品」や「オンライン美術館」等のコンテンツを追加した。

<4> 頒布品の製作・販売

- (1) 次の頒布品を新たに販売した。

オリジナルグッズ	トートバッグ(美術館ロゴ入り)、付箋、エッチングクリップ、チケットファイル、てぬぐい、ダイカットメモ、マグネット、マグネットマーカー、絵はがきホルダー、美濃和紙自由帳 東郷青児パイサブレ
期間限定販売(7月～3月)	ナショナルギャラリー展コラボグッズ (マグカップ、トートバッグ、ブローチ)
期間限定販売(10月～2月)	2021年版カレンダー2種 「グランマ・モーゼス」「東郷青児」

- (2) モンドリアン展では、展覧会オリジナルグッズを委託販売した。
 (3) 7月からの買い物袋有料化によりプラスチック製のショッピングバッグを廃止し、紙製の封筒(無料)の使用、または手提げ袋の販売を実施した。

<5> 収益事業の実施

- (1) ミュージアムカフェ

緊急事態宣言期間及びまん延防止措置適用期間は休業したため、8月、11月、12月、3月の土日祝日、28日間の営業となった。

レインフォレストコーヒー豆や紙ストロー、木のマドラー等の環境配慮型の商材を使用し、アイス飲料のカップもプラスチック製ではなく、紙コップとした。

「東郷青児蔵出しコレクション」では、カフェ利用者全員に東郷青児作品の中から《超現実派の散歩》または《赤いベルト》のコースターを提供した。

- (2) 自動販売機は、感染症対応として販売を見合わせていたが、8月から常時稼働させた。

3. 美術鑑賞教育の普及支援

<1> 対話による美術鑑賞

(1) 新宿区小中学生の美術鑑賞教育支援事業

「新宿区における美術振興を図るための協働連携に関する覚書」に基づき、当年度も(公財)新宿未来創造財団と「新宿区立小学校及び新宿区立中学校の美術鑑賞教育に関する協定書」を締結したが、感染症蔓延のため全ての鑑賞会が中止となった。事前授業は、3月5日に余丁町小学校のみ開催し、ガイドスタッフは参加せず、事務局職員のみで対応した。

(2) ギャラリー★で★トーク・アート(予約制)

感染症対応として、一般観覧者を対象にした対話による鑑賞会の実施は見合わせた。

4. 助成関係事項

<1> 「FACE2021」の選考(11月15日)

業務委託先(ヤマトグローバルロジスティクスジャパン(株))の倉庫にて審査会を実施し、1,193点の応募作品から「入選審査」と「賞審査」を経て、入選作品83点(うち受賞作品9点)を決定した。

審査員は、堀元彰氏(東京オペラシティアートギャラリーチーフ・キュレーター)、山村仁志氏(東京都美術館学芸担当課長)、椿玲子氏(森美術館キュレーター)、藪前知子氏(東京都現代美術館学芸員)、当館館長の5名である。

選考結果は、当館及び業務委託先のホームページで公表した。

賞名	副賞金	作家名	作品
グランプリ	300万円	ウエイジャ 魏嘉	《sweet potato》 パステル・スプレー・エアブラシ・ キャンバス
優秀賞	各50万円	すずきれみ 鈴木玲美	《夜は静かに寝たい》 油彩・キャンバス
		たかみもとひで 高見基秀	《対岸で燃える家》 油彩・パネル
		まちだほみ 町田帆実	《records》 アクリル・クレパス・キャンバス
読売新聞社賞	30万円	と い さ お り 土井沙織	《バイバイ フリードリヒ》 ミクストメディア (寒冷紗、石膏、ペンキ、アクリル)
堀 元彰 審査員特別賞	各10万円	やまもとあゆむ 山本亜由夢	《パライソ》 油彩・アクリル・キャンバス
山村仁志 審査員特別賞		うちださき 内田早紀	《鱗粉のゆくえ》 水彩・色鉛筆・パネル
椿 玲子 審査員特別賞		いのうえ 井上りか子	《感触は、ゆで卵の黄身》 油彩・パステル・キャンバス
藪前知子 審査員特別賞		よこやま まい 横山麻衣	《Man-made Object》 油彩・キャンバス
オーディエンス賞	3万円	なかむら 中村あや子	《宇佐儀洛中図》 アクリル・雲肌麻紙

<2> 「FACE2021」表彰式

感染症対応として、表彰式の開催や内覧会は見合わせた。

<3> 新進美術家の育成援助

新進美術家の支援・育成を目的とする「SOMPO美術館賞」を22の美術団体の公募展平面部門での受賞者に授与する予定であったが、感染症蔓延により21団体の公募展が休止となり、以下の1団体にのみ授与した。

展覧会名	授与年月日	受賞者	受賞作品名
第97回 白日会展	2021年 3月17日	果醐 秀乃子	尾道風景 渡船のある町

5. 公共への協力

<1> 文化行政への協力

感染症蔓延のため、東京都心の東京革命推進協議会主催「都民ふれあいの日」及び新宿区主催「来て・見て・楽しい フィールドミュージアム」、新宿消防署主催「はたらく消防写生会」は休止となった。

<2> 事業計画どおり、学芸員資格取得のための博物館実習は休止した。

<3> 新宿区ユニバーサルデザインまちづくり普及啓発動画の制作に協力し、前庭のゴッホ《ひまわり》複製陶板が新宿区立小中学校の総合学習の教材に活用された。

II. 法人の概況

1. 沿革

- 1976年6月1日 財団法人安田火災美術財団設立
- 1976年7月8日 東郷青児美術館を損保ジャパン本社ビル42階に開設
- 1987年4月1日 安田火災東郷青児美術館に館名変更
- 2002年7月1日 財団法人損保ジャパン美術財団に名称変更
損保ジャパン東郷青児美術館に館名変更
- 2010年4月1日 公益法人への移行に伴い、公益財団法人損保ジャパン美術財団に
名称変更
- 2014年9月1日 公益財団法人損保ジャパン日本興亜美術財団に名称変更
東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館に館名変更
- 2020年4月1日 公益財団法人SOMPO美術財団に名称変更
SOMPO美術館に館名変更し、新美術館棟へ移転

2. 定款に定める目的

この法人は、絵画、彫刻等の美術作品を収集し、保存するとともに広く一般の鑑賞に供し、併せて新進の創作を奨励し、もって我が国芸術文化の振興と国民生活の向上に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 美術作品の収集、保存、公開
- (2) 展覧施設の運営管理
- (3) 美術家の支援、表彰
- (4) 美術鑑賞の教育普及
- (5) 頒布品の製作、販売
- (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

4. 主たる事務所

東京都新宿区西新宿一丁目26番1号

5. 役員等に関する事項

2020年度末現在

職名	氏名	就任日	摘要	最初の就任日
理事長 代表理事 (非常勤)	二宮 雅也	2020.7.29 (理事長就任) 2020.7.15 (理事就任)	損害保険ジャパン(株)取締役会長	2016.1.21 (理事長就任) 2015.12.17 (理事就任)
専務理事 業務執行理事 (常勤)	中島 隆太	2020.7.15	SOMPO美術館館長	2015.6.26
理事 (非常勤)	寺坂 公雄	2020.7.15	画家、日本芸術院会員、 (公社)日展顧問	1987.3.25
理事 (非常勤)	千足 伸行	2020.7.15	広島県立美術館館長、 成城大学名誉教授	1998.6.24
理事 (非常勤)	樺山 紘一	2020.7.15	印刷博物館館長、東京大学名誉教授	2008.6.24
理事 (非常勤)	今野 秀洋	2020.7.15	(一財)貿易・産業協力振興財団理事長	2016.6.29
理事 (非常勤)	山脇 晴子	2020.7.15	中央更生保護審査会常勤委員	2018.6.29
監事 (非常勤)	新里 智弘	2020.7.15	公認会計士	2007.6.19
監事 (非常勤)	内田 満雄	2020.7.15	公認会計士	2016.6.29
評議員 (非常勤)	真室 佳武	2018.6.29	東京都美術館館長	2005.6.14
評議員 (非常勤)	國分 正明	2018.6.29	元(一社)教職員生涯福祉財団会長	2006.6.24
評議員 (非常勤)	高階 秀爾	2018.6.29	(公財)大原美術館館長、 (公財)西洋美術振興財団理事長	2006.6.24
評議員 (非常勤)	遠山 敦子	2018.6.29	(公財)トヨタ財団顧問	2006.6.24
評議員 (非常勤)	宝木 範義	2018.6.29	美術評論家	2008.6.24
評議員 (非常勤)	小佐野 重利	2018.6.29	東京大学名誉教授、 東京大学フューチャーセンター 推進機構特任研究員、 東京大学相談支援研究開発センター 特任教授	2009.3.31
評議員 (非常勤)	馬越 陽子	2018.6.29	画家、女流画家協会委員、 多摩美術大学大学院客員教授	2012.6.29
評議員 (非常勤)	加藤 種男	2018.6.29	Active Archipelago 共同代表 クリエイティブ・ディレクター	2016.6.29

職名	氏名	就任日	摘要	最初の就任日
評議員 (非常勤)	越川 倫明	2018.6.29	東京藝術大学教授	2016.6.29
評議員 (非常勤)	新甚 博史	2019.6.28	損害保険ジャパン(株)広報部長	2019.6.28
評議員 (非常勤)	越川 志穂	2019.6.28	損害保険ジャパン(株)CSR室長	2019.6.28
評議員 (非常勤)	斎藤 勝利	2020.7.15	第一生命保険(株)特別顧問	2020.7.15
評議員 (非常勤)	水越 雅信	2020.7.15	DIC(株)常勤顧問、 DIC川村記念美術館館長	2020.7.15
評議員 (非常勤)	白川 儀一	2020.7.15	損害保険ジャパン(株) 取締役執行役員	2020.7.15
評議員 (非常勤)	桂 浩晃	2020.7.15	損害保険ジャパン(株)総務部長	2020.7.15

6. 職員に関する事項

2020年度末現在

職名	氏名	就業年月日	担任業務	備考
事務局長	鴛海 晋	2017.4.1	事務局事務統括	損害保険ジャパン日本興亜(株)より出向
部長	村田 明弘	2018.4.1	事務局長補佐	損害保険ジャパン日本興亜(株)より出向
学芸課長	五十嵐 卓	1999.4.1	資料の収集・保管・展示、 調査研究、その他専門的業務	
主任学芸員	小林 晶子	1997.9.1	〃	
主任学芸員	中島 啓子	1997.10.1	〃	
主任学芸員	江川 均	1998.4.1	〃	
学芸員	武笠 由以子	2017.10.1	〃	
学芸員	岡坂 桜子	2019.1.1	〃	
事務主任	出口 知子	1999.10.1	財団総務・美術館運営事務等	
事務職員	本條 志穂	2003.10.1	美術館運営事務、広報事務等	
事務職員	池田 美紀	2012.4.1	美術館運営事務、財団総務等	
事務職員	杉本 典子	2012.4.1	美術館広報事務等	
事務職員	吉井 有紀	2013.4.1	鑑賞教育事務、広報事務等	

7. 役員会等に関する事項

<1> 理事会

2020年度は感染症対応として、全ての理事会を定款第38条に基づく理事会決議の省略により開催した。

開会年月日	議事事項等	会議の結果
2020年6月30日 2020年6月19日	■決議事項 定時評議員会の開催 2019年度事業報告及び決算報告の承認 リスク管理規程の制定 ■報告事項 活動状況報告(2020年3月16日～6月16日) 理事の利益相反取引の報告	原案どおり可決 原案どおり可決 原案どおり可決
2020年7月28日	■決議事項 理事長の選定 専務理事の選定 定例役員報酬の承認	二宮雅也理事を 理事長に選定 中島隆太理事を 専務理事に選定 原案どおり可決
2020年9月15日	■決議事項 2020年度展覧会事業の変更 理事の利益相反取引の承認	原案どおり可決 原案どおり可決
2021年3月19日 2021年3月13日	■決議事項 2021年度事業計画及び収支予算の承認 2022年度展覧会の開催 特定費用準備資金の取崩 2023年度特別展の開催及び特定費用準備資金の積立 理事の利益相反取引の承認 役員等賠償責任保険契約の承認 事務局長の選任 ■報告事項 活動状況報告 (2020年6月17日～2021年3月7日)	原案どおり可決 原案どおり可決 原案どおり可決 原案どおり可決 原案どおり可決 原案どおり可決 原案どおり可決

<2> 評議員会

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第194条及び第195条により決議の省略及び報告の省略により開催した。

開会年月日	議事事項等	会議の結果
2020年7月15日	■決議事項 2019年度決算報告の承認 任期満了による役員を選任 評議員の選任 ■報告事項 2019年度事業報告	原案どおり可決 原案どおり選任 原案どおり可決

8. 許可、認可、届出、承認及びその他の重要事項

届出等年月日	申請等事項
2020年4月1日	法人の名称を「公益財団法人SOMPO美術財団」に変更 美術館の名称を「SOMPO美術館」に変更
2020年4月1日	事業所名と公告用ホームページアドレスの変更を登記
2020年4月17日	内閣府へ変更届(法人名、美術館賞・FACEの名称変更等)を提出
2020年4月30日	新宿税務署へ法人名変更、収益事業開始等の届出を提出
2020年5月1日	都税事務所へ法人名変更、収益事業開始等の届出を提出
2020年5月8日	東京都へ登録博物館変更届(館名、法人名等)を提出
2020年6月13日	東京都及び文部科学省へ「青少年を対象とした取組等に関する実績報告(2019年度)」を提出
2020年7月21日	内閣府へ2019年度事業報告等を提出
2020年7月29日	評議員及び役員の変更を登記
2020年8月12日	東京都へ登録博物館変更届(建物面積等)を提出
2020年8月26日	内閣府へ評議員及び理事の変更を届出
2020年8月12日	東京都へ登録博物館変更届(建物面積等)を提出
2021年3月30日	内閣府へ2021年度事業計画書等を提出

9. 寄付金等に関する事項

寄付の目的	寄付者	領収金額
公益目的事業に充当	損害保険ジャパン(株)	70,200,000円
特別展「ゴッホと静物画」 中止に関わる費用に充当	損害保険ジャパン(株)	34,480,000円
再開するゴッホ展の作品賃 借に関わる費用に充当	損害保険ジャパン(株)	70,000,000円
法人の管理運営に充当	損害保険ジャパン(株)	21,300,000円
公益目的事業に充当	法人・団体 25件	5,170,000円
公益目的事業に充当	個人 52件	2,562,000円

10. 行政庁指示に関する事項 該当なし

11. その他

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する附属明細書は、特記事項がないため作成していない。

以上